

第10期 練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
（令和9～11年度）の策定に向けて
《計画の方向性について》

令和7年7月23日

第4回 練馬区介護保険運営協議会

項 目	区 の 現 状
高齢者の現状	■超高齢化の進行 ・ 高齢者数 ： R7年1月 約16.4万人 ➡ R22年1月 20.0万人 ・ 高齢化率 ： R7年1月 22.0% ➡ R22年1月 25.6% ・ 後期高齢者は、R11 年以降に一旦減少傾向となるが、R17 年から再び増加に転じ、R37 年頃にピークを迎える見込み ■高齢者世帯の増加 ・ 【単身世帯】 R7年1月：57,801世帯 ➡ R22年1月： 87,795世帯 ・ 【高齢者のみ世帯】 R7年1月：30,717世帯 ➡ R22年1月： 36,730世帯 ■要介護認定者（第1号被保険者）の増加 ・ R7年1月：36,616人 ➡ R22年度：40,460人 ※認定率は、前期高齢者の増加に伴ってやや減少する見込みだが、認定者数は増加する。 【高齢者全体の認定率】 R7年1月：22.3% ➡ R22年度：20.0% 【後期高齢者の要介護認定率】 R7年1月：34.8%（前期高齢者の要介護認定率：4.7%） ・ 要介護度別にみると、重度者（要介護4・5）の認定者数の増加率が中・軽度者（要介護3以下）と比較して大きい（R5年からR22にかけて約1.2倍増加）。
介護保険	■介護保険料の増加 ・ R8年度：月額6,670円 ➡ R22年度：月額9,400円 ■介護給付費の増加 ・ R5年度：584億円 ➡ R22年度：706億円 ・ 給付費は全国・東京都平均より高く、特別区の中で8番目に高い。 ・ 在宅サービス、施設および居住系サービスともに給付費が高水準。 ・ 介護保険サービス受給率は全国・東京都平均より高く、特別区の中で4番目に高い。 ・ 特に施設サービスの受給率が特別区内で2番目に高い。

項目	区 の 現 状
元気高齢者の いきがづくり・ 就労支援	■現状 ・区内の高齢者の約8割は要介護認定を受けていない、いわゆる「元気高齢者」であり、地域の担い手として、様々な場面での活躍が期待されている。 ・仕事をしている人の働きたい年齢：R4年度「ずっと働きたい」が36.0%で最多、「71～75歳まで」「76～80歳まで」と続く。働く理由は「生活費を得るため」が50.1%で最多 ■区の実施 ・元気高齢者介護施設業務補助事業：R6年度 44施設 71人 ・シニアセカンドキャリア応援事業：R6年度 6回 受講者149人
介護予防・ 健康づくり	■現状 ・介護予防・フレイル予防取組状況：R4年度 65歳以上は82.5%、55～64歳は65.7% ・介護予防の効果を感じている：R4年度 65歳以上は72.9%、55～64歳は72.8% ・健康状態がよい：R4年度 65歳以上は76.2%、55～64歳は80.6% ・自宅に閉じこもりがち：R4年度 65歳以上は8.8%、55～64歳は10.5% ■区の実施 ・街かどケアカフェの充実： - R6年度 常設型 8か所、地域サロン型 37か所、出張型街かどケアカフェの充実 ・公衆浴場活用事業「フロ・マエ・フィットネス」の充実： - R6年度 9か所 実施136回 ・「高齢者みんな健康プロジェクト」の拡充：R6年度 ①実施体制の強化：企画調整担当1人→2人、高齢者保健指導専門員6人→8人に増員し実施 ②個別訪問事業の充実：訪問支援実数295人 ③講座・教室事業の充実：220回 参加者数2,887人 ④練馬区薬剤師会との連携による服薬指導・健康相談の実施：相談者数66人

項 目	区 の 現 状
地域包括支援 センター	■現状 ・ R5年4月に2か所の地域包括支援センターを開設し、団塊の世代が全て後期高齢者になるR7年に向けて進めてきた地域包括支援センター27か所体制が整った。 ・ センターの相談件数（延べ件数） R6年度 214,352件 ■区の実施 ・ 地域包括支援センターの増設・移転・担当地域の見直し：R6年度 増設の検討、4か所移転、移転に伴い担当地域の変更 ・ 生活支援コーディネーター体制の拡充：R6年度 27人体制27地区
複合的な課題への 支援	■区の実施 ・ 重層的な支援体制の強化：R6年度 ①アウトリーチ型の支援体制の強化：充実（4人体制） ②社会参加に向けた居場所支援の充実：実施 ・ ヤングケアラーへの支援の実施：R6年度 ①学校とスクールソーシャルワーカーの連携による早期発見の充実：充実 ②ヤングケアラーコーディネーターの配置：配置 ③一人ひとりに応じた支援の実施：充実
ひとり暮らし高齢者 への支援	■区の実施 ・ 高齢者在宅生活あんしん事業：R6年度 登録者数2,366人 ・ 終活相談窓口の設置：R6年度 開始

項 目	区 の 現 状
認知症	■現状 ・認知症高齢者の増加：R6年 3万人 → R22年 4.1万人 ■区の実施 ・もの忘れ検診：R6年度 受診者数693人 ・認知症予防講座・講演会の実施：R6年度 認知症予防プログラム（自主グループ立ち上げ10グループ） ①脳活体操：3回 ②スマホで脳活：4回 ③絵本読み聞かせ：2回 ④予防講演会：150人参加（メイン会場・サテライト会場・Zoom） ・チームオレンジ活動の実施（本人ミーティング・認知症サポーターの活用）：R6年度 ①認知症サポーター養成講座：受講者数1,639人/53回 ②チームオレンジ活動：388回
医療・介護連携	■現状 ・要介護認定者（要介護1～5）を対象とした在宅療養の希望： R元年度 36.3% → 令和4年度 63.8% ■区の実施 ・ACPの普及啓発：R6年度 開始 ・練馬光が丘病院跡施設における複合施設の整備：R7年4月開設 ・認知症高齢者グループホームの整備：R6年度1か所 ・看護小規模多機能型居宅介護の整備：R6年度1か所

項 目	区 の 現 状
施設整備・ 住まいの確保	■区の実施 ・都市型軽費老人ホームの整備 : R6年度 1 か所 ・大泉特養改修費補助実施 : R6年度 実施 ・住まい確保支援事業 伴走型支援の実施 : R6年度 ①居住支援協議会の開催 : 2 回 ②住まい確保支援事業<情報提供事業>の実施 : 申込件数204件、情報提供件数50戸 ③住まい確保支援事業<伴走型支援>の実施 : 支援件数48件
介護人材	■現状 ・介護人材はR7年には約700 人、令和22 年には約1,800人が更に必要な見込み ・介護サービス事業所調査(R4年度)において、職員状況は、大いに不足 11.3%、不足 21.9%、やや不足 32.4%となっており、65.6%の事業所が不足していると感じている。 ■区の実施 ・介護従事者養成研修 : R6年度 実施 3 回 ・介護福祉士養成施設の開設 : R7年4月開設 ・練馬福祉人材育成・研修センター事業 : R6年度 実施 ・介護分野の文書削減・標準化 : R6年度 電子申請・届出システムの運用開始

高齢者基礎調査や社会情勢を踏まえて課題や取組を整理し、今後の検討の中で施策としてまとめる。

施策1**元気高齢者の活躍
と健康づくり・フレイル
予防の推進**

元気高齢者の社会参加の促進と活躍の場づくり
元気高齢者介護施設業務補助事業など

地域が一体となってフレイル予防に取り組む
環境づくり
街かどケアカフェなど

より実効性の高い健康づくりと介護予防・
フレイル予防の推進
高齢者みんな健康プロジェクトなど

施策2**高齢者を支える地
域との協働の推進**

高齢者を支える相談支援体制の強化
**地域包括支援センターの増設・移転・担当地域の
見直し、孤独・孤立支援**など

地域との協働による生活支援体制の充実
生活支援コーディネーター体制の拡充など

複合的な課題を抱える世帯への支援
**ひきこもり、8050世帯、ヤングケアラーへの
支援**など

将来や災害に備えた支援
終身ケアなど

施策3**在宅生活を支える
医療と介護サービス
基盤の整備**

在宅療養ネットワークの強化と医療提供体制
の充実
ACPの普及啓発など

住み慣れた地域で暮らしながら、自宅での療
養を安心して選択できる環境の整備
地域密着型サービスの整備など

施策4**介護保険施設等の
整備と住まいの
確保**

介護保険施設等の整備
特別養護老人ホームの大規模改修費補助など

高齢者が安心して暮らせる住まいの確保
住まい確保支援事業 伴走型支援など

施策5**介護の現場を支え
る総合的な人材対
策の推進**

介護サービスを支える多様な人材の確保
介護従事者養成研修の実施など

複雑化・複合化する介護ニーズに対応す
る人材の育成
練馬福祉人材育成・研修センター事業など

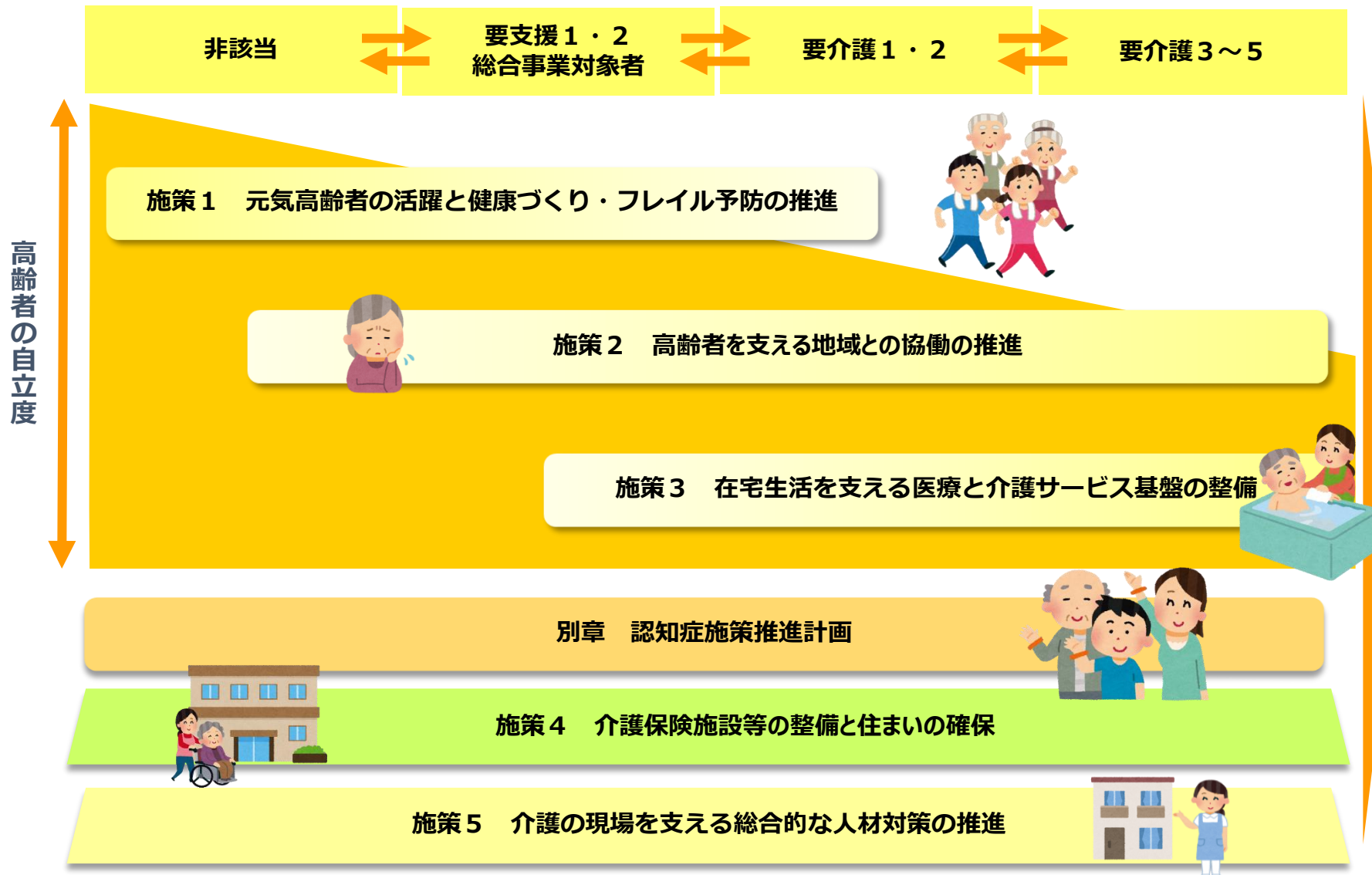
職員の負担軽減等による人材の定着支援
介護現場のDX化の推進など

別章**認知症施策推進計画**

→ 9期計画の「施策3 認知症高齢者への支援の充
実」を計画として位置付ける

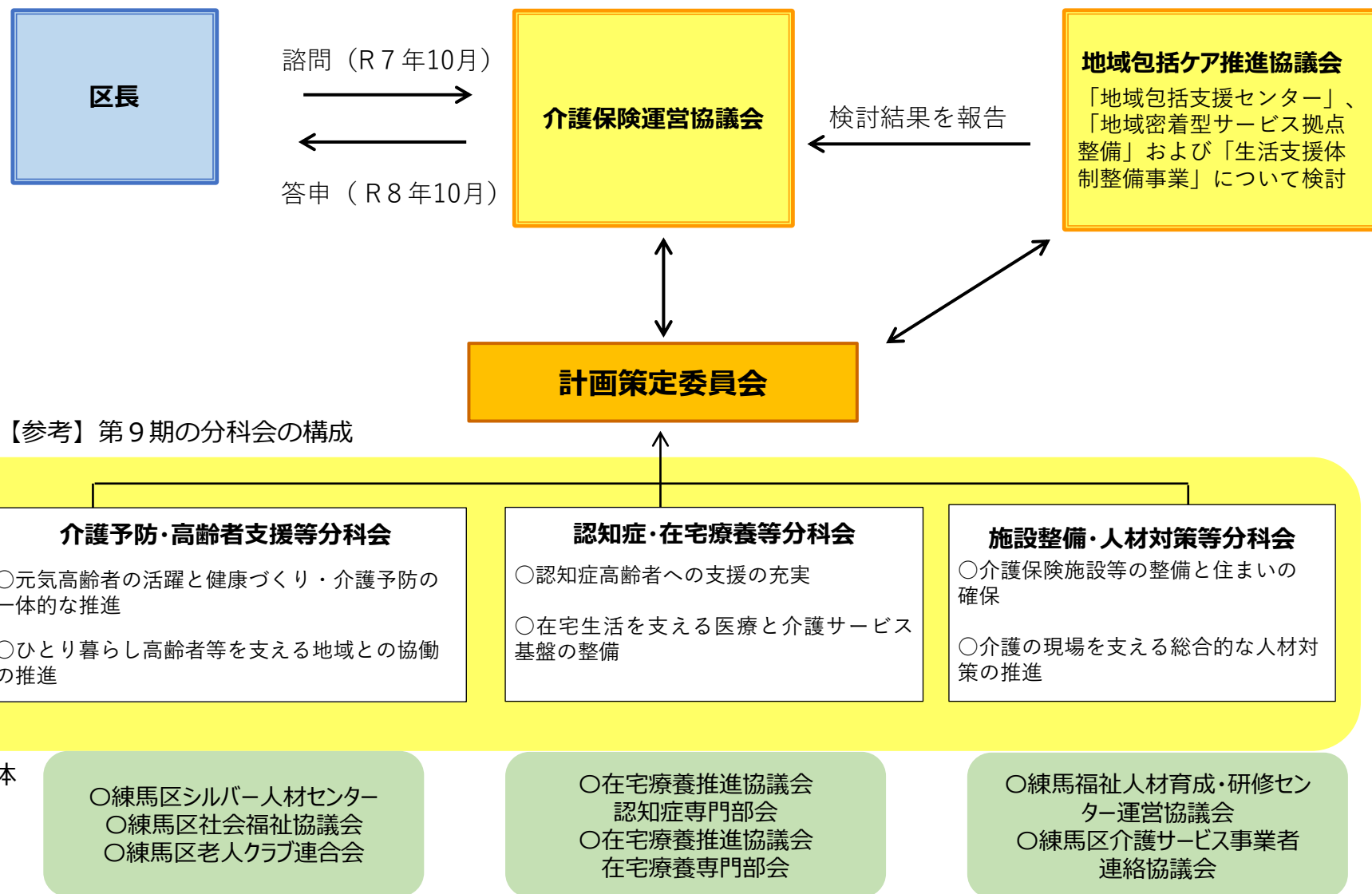
【例】施策が想定する主な対象者と高齢者の状態像を組み合わせたイメージ

＜ 高齢者の要介護認定の状況 ＞



3 検討体制のイメージ

- 第10期計画策定に向けた提言等を行うため、区長の附属機関である介護保険運営協議会および地域包括ケア推進協議会が各々の所掌する課題について検討する
- 各審議機関による検討結果についての回答を踏まえ、介護保険運営協議会で答申を作成する



- ・ 高齢者の生活状況やサービス利用の実態を把握することで、新たな施策について検討し第10期計画へ反映する
- ・ 日常生活圏域ごとにニーズを把握できるよう対象者を抽出する（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）

	調査名	調査対象
1	高齢者一般調査	介護保険の認定を受けていない区内在住の65歳以上の高齢者 【2,500人・65問程度】
2	要支援・要介護認定者調査	介護保険の認定を受けている区内在住の65歳以上の高齢者 【6,500人・70問程度】
3	これから高齢期を迎える方の調査	介護保険の認定を受けていない区内在住の55歳から64歳までの方 【800人・65問程度】
4	特別養護老人ホーム入所申込者調査	特別養護老人ホームの入所申込者【900人程度・60問程度】 ※前回調査比125人減。
5	介護サービス事業所調査	区内の全介護サービス事業所【1,100事業所・70問程度】 ※前回調査比50事業所増。
6	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	介護保険の認定を受けていない区内在住の65歳以上の高齢者 介護保険の認定を受けている区内在住の65歳以上の高齢者のうち、要支援認定者 （総合事業対象者を含む）【3,900人・45問程度】 ※前回調査比1700人増。
7	在宅介護実態調査	区内で在宅生活をしている要支援・要介護認定の区分変更および更新申請に伴う 認定調査対象者とその家族【600人・20問程度】
8	施設整備調査	区内の介護保険施設等【350施設・15問程度】

年度	月	介護保険運営協議会	計画策定委員会	区議会	調査等
R 7	7月	第 4 回 計画の方向性・基礎調査項目の検討	第 2 回 計画の方向性・基礎調査項目の検討		
	9 月			調査実施の報告	
	10月	第 5 回 諮問、基礎調査実施の報告	第 3 回 分科会設置・基礎調査実施の報告		分科会による検討の開始
	11月				高齢者基礎調査開始
	12月				
	3月	第 6 回 基礎調査結果の報告	第 4 回 基礎調査結果の報告		高齢者基礎調査まとめ
R 8	4月	第 7 回 課題検討			
	5月	第 8 回 課題検討		調査結果の報告	
	6月				
	7月	第 9 回 課題検討			
	8月	第10回 答申作成	第 5 回 分科会報告		
	9月				
	10月	第11回 報告書・答申の提出			答申
	11月	第12回 計画（素案）の説明	第 6 回 計画（素案）の作成	計画（素案）の報告	
	12月				パブリックコメント
	1月		第 7 回 計画（案）の作成		
	2月	第13回 計画（案）の説明		計画（案）の報告 関係条例の改正	
	3月	第14回 計画策定の説明			